報道実績

新　聞　下野新聞

2025年6月7日付
ロゴ決定

本県で来年 食育全国大会

県、テーマとロゴを発表

農林水産省と県が共催する「第21回食育推進全国大会inとちぎ」が2026年6月6日、本県で初めて宇都宮市内で開かれる。大会の周知に向け、県は開催1年前となった6日、大会のテーマ「とちぎからつながる恵みの輪～作って食べて学んで食育で未来を拓こう～」とロゴを発表した。

県によると、同大会は毎年6月の「食育月間」に合わせ、農水省と各都道府県が持ち回りで共催。本県大会は開市元今泉6丁目のマロニエプラザを会場に、食育活動の表彰やシンポジウム、ステージイベントなどを行う。県は1万～1万5千人の来場者を見込む。

大会テーマは食と農のつながりや豊富、人や地域の結び付きを表現した。ロゴは本県を代表する農産物のイチゴの色や形をモチーフにした。県農政課の担当者は「本県の多彩な農産物の魅力や豊かな食文化、食育の取り組みを全国に発信し、食と農の理解促進につなげたい」と意気込む。

徳島県で7～8日に開かれる本年度の大会には広川貴次・農林政務官らが参加し、開催地の引き継ぎ式に臨む。本県ブースを設け、農産物や観光をPRする。（福渡靖大）

「食育推進全国大会inとちぎ」のロゴ（県提供）

2026年3月15日付
プレイベント



自身のキャリアや食の大切さについて話す栗原さん（右）＝14日午後、宇都宮市陽東6丁目

食事バランス 大切さ訴え

バレー元日本代表栗原さん

宇都宮 食育大会プレイベント

6月に本県で初開催される「食育推進全国大会」のプレイベントが14日、宇都宮市陽東6丁目の商業施設ベルモールで開かれ、バレーボール女子元日本代表の栗原恵さんのトークショーが行われた。栗原さんは選手生活を振り返り、バランスの取れた食の重要性を訴えた。

食育推進全国大会は6月の食育月間に合わせて毎年開かれており、本県では6月6日に同市のマロニエプラザで開催予定。プレイベントは本番に向け機運を高めようと県が主催した。

栗原さんは高校1年で日本代表に選出され、アテネ、北京と2大会連続で五輪に出場。いずれも5位入賞を果たした。19年に現役を引退し、スポーツキャスターやタレント、モデルなどとして活躍している。

トークショーでは現役時代、試合期間とトレーニング期間で食事の内容を変えていたと明かし、「げがの予防や判断力の向上につながる」と食の重要性を強調。現在は1歳の子どもの子育て中で「おいしそうに食べるのを想像しながら料理をするのがモチベーションになっている」と話した。（東山聡志）

4月8日付
上野通子 氏　インタビュー

2026 特別国会 本県関係議員に聞く 10

上野 通子 氏 自民

成熟社会へWBの視点を



4月15日付
プログラム公開

藤本美貴さんやU字工事登場

6月食育大会 県、プログラム発表

県は14日、6月6日に本県で初めて開かれる「第21回食育推進全国大会inとちぎ」のプログラムを発表した。メイン会場の宇都宮市元今泉6丁目のマロニエプラザでは、食や生活にまつわる発信が好評のタレント藤本美貴さんによるトークショーや、本県出身のお笑いコンビ「U字工事」が参加するクッキングショーなど多彩なイベントを行う。

同大会は食育に関する国民の理解を促すため、毎年6月の「食育月間」に合わせて、農林水産省と各都道府県が持ち回りで共催している。本県大会はマロニエプラザの他、近くのプレックスアリーナ宇都宮（同市体育館）と宇都宮日場高をサブ会場に開催する。

大会テーマの「作って食べて学んで 食育で未来を拓こう」にちなみ、プログラムには野菜の収穫体験や食育をテーマにした謎解きラリー、食と農業のつながりを考えるセミナーなども盛り込んだ。

会場には試食や体験、販売のブースが150以上出展される予定で、県農政課の担当者は「県産農産物のPRもしていきたい」と話している。プログラムの一部は事前申し込みや整理券が必要。今後、大会公式ホームページで事前申し込み専用ページを順次開設する。（福渡靖大）

報道実績

新　聞　下野新聞

5月17日付　部長インタビュー

県政重要課題を聞く 2026 5

農政部長
広川　貴之（ひろかわ　たかゆき）氏（58）



県土整備部長
横尾　元央（よこお　もとお）氏（58）



インフラ「予防保全」へ

就農支援 関西にも発信

6月5日付　大会告知

県民が意識せずとも健康に

食生活 環境づくり着手

新事業 あす食育大会で知事宣言

県は本年度、食育に関する活動を発展させ、県民が意識せずとも健康的な食生活を送れる環境づくりに着手する。「自然に健康になれるとちぎ食の環境プロジェクト」として、環境づくりに積極的に取り組む事業所の登録制度を創設し、2035年度までに80事業所・県内全25市町の参画を目指す。6日に本県で初めて開かれる「食育推進全国大会」で、福田富一知事がキックオフを宣言する。

県は07年7月、関係団体と共に「とちぎ食育推進連絡会」を設立し、食と農への理解促進や健康的な食生活の推進などを進めてきた。26～30年度の方針を定めた第5期県食育推進計画では、新たに健康になれる食環境づくり」を盛り込んだ。

食品事業者が提供する商品をより減塩にしたり、飲食店が茶わんに盛るご飯の量を調整したりすることで、県民が意識せずとも健康的な食生活を送れる環境を目指すという考え方だ。

プロジェクトでは趣旨に賛同する飲食業や食品製造業、小売店といった食に関わる事業所をはじめ、市町や教育機関、報道機関などに登録を呼びかけ、一体的な活動を展開する方針。年度内をめどに登録事業所を中心とした協議体を立ち上げ、取り組みの進捗や登録事業所へのインセンティブ（動機づけ）の在り方を議論する。

6日の食育推進全国大会では、記念シンポジウムとして淑徳大看護栄養学部の坂口景子准教授による基調講演や、プロジェクトのモデルとなる取り組みを実践する企業の事例紹介を行う。

県健康長寿推進課の担当者は「プロジェクトを県民に知ってもらうことが鍵となる。健康に関心がなくても、より良い食生活を選択できる環境をつくりたい」と話した。（稲葉雄大）

6月6日付　給食状況

3年連続で全国2位

24年度文科省まとめ

本県給食 地場産物80%

コメ牛乳は全量 意識醸成効果も

6月6日付　雷鳴抄

雷鳴抄

2026.6.6

「生きるために食べよ、食べるために生きるな」は、古代ギリシャの哲学者ソクラテスの言葉とされる。食べることは目的ではなく手段で、目的を見失うなという戒めと解釈できる▼もっとも、食をおろそかにしてよいということではない。生きるためにこそ、食べることは大切だ、と。この視点は現代の食育に通じる。食に関する正しい知識や習慣を身に付け、健やかな生活を送る力を育むのが食育である▼2005年に食育基本法が施行され、県は06年度から食育推進計画を策定し、5年ごとに見直してきた。26年度からの第5期計画は、食環境の向上を目指すまちづくりに取り組む市町を増やすことなどを目標に掲げる▼こうした取り組みを支えるのが、ボランティアの「とちぎ食育応援団」である。企業や大学、保育施設などで講座を開き、幅広い世代に食の大切さを伝えている▼真岡市で菓子工房を営む川村葉子さん（53）もその一人。子どもの食育に携わる中で、アレルギーなどで食べられるものが限られる子どもが増えていると感じている。「自分に合う食材を自分で選ぶ力をつけてほしい」との思いで活動を続ける▼6日には、食育がテーマの全国大会が本県で初めて開かれる。県内の取り組みを発信する好機だ。何をどう食べるのか。改めて食と向き合う機会としたい。

報道実績

新　聞　下野新聞

6月7日付　藤本美貴さん記事



本県で食育推進全国大会

藤本美貴さん、U字工事ら登場

多彩な催し通じ農の魅力再確認

食育推進全国大会 ぎゃくつなが

6月7日付　大会の様子



食育推進全国大会 in とちぎ

食育の輪 本県から広がれ

宇都宮で全国大会

6月11日付　フレッシュメイト



県庁訪れ意気込み

25代目「フレッシュメイト」

県産農産物 魅力発信へ

福田知事らに意気込みを語るフレッシュメイトの3人＝10日午前、県庁

県産農産物のイメージアップを図るとちぎ農産物マーケティング協会の25代目「とちぎフレッシュメイト」に就任した3人が10日、県庁を訪れ、福田富一知事に意気込みを話した。

3人は大学3年大塚菜々美さん（20）＝栃木市、パート物池陽菜さん（19）＝宇都宮市、自営業守谷紳さん（20）＝岡市。一般公募で応募があった24人の中から、書類審査や面接を経て選ばれた。来年5月末まで、イベント参加や交流サイト（SNS）での発信を通して、県産農産物の魅力を広める。

3人は今月6日に岡市内で開かれた食育推進全国大会に「初仕事」として参加したことを振り返りながら、「生産者や消費者と接して、良い経験ができた」「動画投稿サイトのユーチューブでより面白い発信をしていきたい」などと話した。福田知事は3人から真岡産のメロンを受け取り、「鮮烈なデビューでしたね。今月からよろしくお願いします」と激励した。（佐藤友佳）

6月24日付　論説　食の環



とちぎ発　食の環プロジェクト

産学官連携 確かな成果を

県は新たに、自然に健康になれるとちぎ食の環プロジェクトを浸透させるため、オール栃木で取り組みを進めたい。

プロジェクトには、まずは可能な限り多くの登録が欠かせないだろう。県は2032年度までに、全8割、野菜摂取量の1日の目標値（350グ）を摂取している県民の割合は20～30歳代の男性が約25%で、女性は約18%にとどまる。また朝食を欠食する県民の割合は20歳代で、男性は20～30歳代で高い。

食と健康に関する取り組みには、働き盛りの世代への支援が欠かせない。県計画には、横断的に推進する取り組みとして「大人の食育」も新たに加わった。プロジェクトへの理解を深めた。この輪を一層広げるには地域や家庭、職場で食育に向き合う機会が重要になる。プロジェクトとともに、従来通りの啓発活動も粘り強く進めるべきだ。

宇都宮市で6日に開かれた食育推進全国大会で、プロジェクトのキックオフが宣言された。大会には約1万6千人が訪れ、ステージイベントやワークショップを通して食育への理解を深めた。この輪を広げるには地域や家庭、職場で食育に向き合う機会が重要になる。プロジェクトとともに、従来通りの啓発活動も粘り強く進めるべきだ。

その他　6月7日付　読売新聞・日本農業新聞に掲載

とちぎ食育推進連絡会による大会企画の検討

県内の食育関連団体で構成される「とちぎ食育推進連絡会」において、大会テーマやコンセプト及び企画内容について検討を行った。

とちぎ食育推進連絡会とは

栃木県食育推進計画「とちぎ食育元気プラン」に基づき、食育に関係する機関・団体　等の連携・協力により、食育を総合的に推進することを目的とする県内組織。

《構成団体》（令和８年4月1日現在）

栃木県生活協同組合連合会
栃木県市町村消費者団体連絡協議会
栃木県特用林産協会
公益社団法人栃木県栄養士会
公益社団法人栃木県食品衛生協会
アイ・エフ・シー栄養専門学校
栃木県食生活改善推進員協議会
一般社団法人栃木県食品産業協会
一般社団法人栃木県商工会議所連合会
栃木県商工会連合会
栃木県中小企業団体中央会
栃木県農業士会
栃木県女性農業士会
一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会
公益財団法人栃木県農業振興公社
栃木県農業協同組合中央会
栃木県保育協議会
一般社団法人栃木県幼稚園連合会
栃木県地域婦人連絡協議会
栃木県ＰＴＡ連合会
栃木県小学校長会
栃木県学校栄養士会
公益財団法人栃木県学校給食会
栃木県市長会
栃木県町村会
関東農政局
栃木県
下野新聞社編集局
宇都宮大学
自治医科大学附属病院
アサヒクッキングスクール

検討経過

開催回	日　程	内　容
第1回	令和7年5月26日	大会テーマ検討、大会開催に向けた意見交換
第2回	令和7年10月2日	コンセプト検討、出展団体募集
第3回	令和8年3月13日	大会企画案の検討及び承認

